

修士論文(要旨)

2016年1月

語彙学習ストラテジーから見る学習者オートノミー  
—日本語学校に在学する中国人留学生を対象として—

指導 齋藤 伸子 教授

言語教育研究科

日本語教育専攻

214J3002

カツ ウネイ

Master's Thesis (Abstract)

January 2016

Learners Autonomy in Vocabulary Learning Strategies: Focusing on Chinese Foreign Students in a  
Japanese Language School

Yuning Ge

214J3002

Master's Program in Japanese Language Education

Graduate School of Language Education

J.F.Oberlin University

Thesis Supervisor: Nobuko Saito

## 目次

第1章	はじめに	1
1.1	研究背景	1
1.2	研究目的	2
第2章	先行研究	2
2.1	学習ストラテジー	2
2.2	語彙学習ストラテジー	3
2.3	学習者オートノミーに関する研究	3
2.3.1	学習者オートノミー	3
2.3.2	オートノミーの状態	4
2.3.3	学習者オートノミーと自律性	5
第3章	調査概要と研究方法	5
3.1	調査概要	5
3.2	調査期間と調査対象者	6
3.3	研究方法	7
第4章	分析方法1の調査結果と分析	9
4.1	インタビュー調査	9
4.2	アンケート調査	19
第5章	分析方法2の調査結果と分析	25
5.1	ストーリーライン	25
5.2	教師側についての分析	26
5.3	教師と学習者両方についての分析	31
5.4	学習者側についての分析	35
5.5	総合的考察	40
第6章	まとめと今後の課題	42

注

参考文献

資料 I

資料 II

近年、日本での留学を希望する若者はますます増えている。中でも中国からの留学生は最も多い。中国人学習者の中には専門学校、大学また大学院への進学を目指し、まず日本語学校に入学し、日本語を勉強する人もいる。正式に日本語を勉強するなら、日本の文字を学ぶことは重要である。中国語母語話者にとって漢字を使う語彙は、母語と似ており、また意味が想像しやすく、日本語を学習しやすいと思われがちである。

稿者は中国の大学での日本語専攻出身である。日本語学習について、自身の経験を振り返ると、体系的に語彙を学習したことがあまりなく、単に単語を暗記していた。しかし、日本語能力試験に合格するためには、語彙量が少ないことを感じ、自身でリソースを探し、語彙を覚えた経験がある。その後、日本に留学することを決め、まず日本語レベルを上げようと、日本語学校に入学したが、大学と同様に日本語学校でも語彙指導を受けたことがあまりなく、進学のための受験対策、読解聴解を中心とした授業を受けた。それは、学生は全員漢字圏の中国人であったからかもしれない。学校の授業で忙しい中でも、専門知識に関する語彙や日本での生活に関する語彙の量が明らかに足りないと感じ、単に単語帳を見て単語を丸ごと暗記することのほかに、学校からもらった資料以外のリソースを探し、語彙を覚える方法を探し学習していた。大学入学後に身に付けた自分で学習する能力を生かし、来日してからも語彙学習を順調に進めてきた。

自分自身の経験から、オートノミーの重要性が分かったが、学習にオートノミーという概念をどの段階で、どのように導入すれば、語彙学習に良い影響を与えるのか、さらに、それを手助けとして日本語学習をうまく進めていくことができるのかはまだわからない。そこで語彙学習とオートノミーの関係を追究したいと考えた。

本研究では、自律学習の要素の一つ「学習ストラテジー」を中心として、学習者の語彙学習ストラテジーを見ながら、学習者オートノミーの変化を分析することにする。

本研究の調査対象者は日本語学校に在籍する中国人留学生4名である。調査期間は日本語学校の一学期間（4月15日-7月29日）であるが、六つの調査時期に分けられる。調査対象者と一対一の対面式の半構造化インタビューを行う。インタビュー調査とアンケート調査を実施し、語彙学習リストにより調査対象者たちの語彙学習内容を聞く。学習者に対して予めストラテジーを提示するため、学習ストラテジーと語彙学習ストラテジーに関する理論を整理し、分類範囲が広いオックスフォードの学習ストラテジーをモデルとした35問の語彙学習リストを作り、本調査で使用することにした。また、今の段階での語彙学習の状況を知るため、書くこと、聞くこと、文法学習などを含めすべての日本語学習の状況を聞く。その結果に基づき、分析を行った。

分析方法は、まず、録音したインタビューデータを文字化し、調査対象者の語彙学習の状況を分析するために、分析枠組みとしてオートノミーの状態を参考にし、学習目標、リソースの選択、学習シナリオ、評価、マネジメントの5つの項目から調査対象者の学習者オートノミーに関する変化を分析した。各段階の日本語の学習目標によって、語彙学習の目標が変わり、学習ストラテジーの使用状況も変わっていたことを明らかにした。その分析した結果を参考に、調査対象者の語彙学習ストラテジーをまとめた結果、間接ストラテジーより直接ストラテジーのほうをよく使っていることがわかった。また、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）を用いて分析した。調査結果を3つのカテゴリーに分け、語彙学習に教師の役割、学習者に与えられた影響を分析した。学習者として、語彙

学習に現れた事情をまとめ考察を行った。

新しい学習環境と出会っても、来たばかりの学習者たちはそのような環境を受け入れるまで時間がかかり、それまでの学習方法に慣れていた学習者たちに対しては、様々な学習方法やストラテジーをどう利用すれば学習に良い影響を与えるのかを考える機会を与え、学習方法の選択を「自ら」行うという考えを生み出すことが今後の日本語学習に良い影響を与えると思う。

また、学習者が日本語を学習する時間が長くなると、語彙学習に使うリソースや方法について選択する力や決定する力が強くなり、日本社会との接触機会が多くなるにつれ、教師に対する認識が変わる可能性があると言える。語彙学習早期と違い、学習後期になると、日本語教師について、相手がどのような教師なのか、自分の学習に良い影響を与えるのかなどのことを考え、教師の役割に自分から定義を下し、教師に対する「依存性」が変わるかもしれない。「依存性」が弱くなる可能性があるため、語彙学習早期にオートノミーという概念を導入すれば、受け入れやすいと思われる。

本調査に稿者は第三者として調査対象者の語彙学習状況を聞き、語彙学習ストラテジーからオートノミーの発揮状況を分析したが、知識より実践あるのみである。今後、実際の授業の邪魔しないようにオートノミーを実践導入する方法を課題としたい。

参考文献

- 青木直子 (2005) 「自律学習」 日本語教育学会編『新版日本語教育事典』 大修館書店 pp.773-774
- 青木直子 (2011) 「自律学習」 青木直子・中田賀之編『学習者オートノミーー日本語教育と外国語教育の未来のためにー』 ひつじ書房 pp.2-3
- 天野裕子 (2014) 「日本語語彙学習ストラテジー研究の動向と課題」 『地球社会統合科学研究』 創刊号 pp.1-8
- アンリ・オレック (2011) 「言語学習におけるオートノミー」 青木直子・中田賀之編『学習者オートノミーー日本語教育と外国語教育の未来のためにー』 ひつじ書房 pp.25-44
- 石橋玲子・大塚淳子・鈴木紀子・八若寿美子 (1996) 「中級日本語学習者の自律的学習に向けて意識化の試み」 『言語文化と日本語教育』 pp.62-76
- 伊藤早苗・鈴木正子 (2001) 「日本語学習者の漢字辞書使用ストラテジー：初級者と上級者の事例研究」 『北海道大学留学生センター紀要 (5)』 pp.64-86
- 牛窪隆太 (2014) 「新人日本語教師の葛藤を生み出すものー制約の下での発達に焦点をあててー」 『多摩留学生教育研究論集』 第9号 pp.1-10
- 梅田康子 (2005) 「学習者の自律性を重視した日本語教育コースにおける教師の役割ー学部留学生に対する自律学習コース展開の可能性を探るー」 『言語と文化：愛知大学語学教育研究室紀要 第39巻 12号』 pp.59-77
- 小室リー郁子 (2009) 『漢字圏の学習者への漢字語彙教育』 『JSL 漢字学習研究会誌 1号』 pp.19-20
- 海保あづさ (2007) 『大学短期留学生の自律性に関するー考察』 桜美林大学大学院言語教育研究科提出修士論文
- 河合靖 (1999) 「外国語自律学習研究の3要素：動機づけ, 学習スタイル, 学習ストラテジー」 『言語文化部紀要 (37)』 pp.68-85
- 河住有希子 (2010) 「中国語母語話者による日中同形語の学習方法について」 『JSL 漢字学習研究会誌 2号』 pp.35-37
- 木下康仁 (2003) 『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践ー質的研究への誘い』 弘文堂
- 金妍 (2010) 「漢字語彙授業における学習ストラテジーの動き」 『接触場面の変容と言語管理 接触場面の言語管理研究 vol.8』 pp.135-144
- 小林由子 (2004) 「日本語の漢字学習におけるメタ認知：漢字圏学習者を対象として」 『北海道大学留学生センター紀要 (8)』 pp.88-98
- 謝霏霏 (2011) 『中国人日本語学習者の語彙学習ストラテジーに関する研究ー日本の日本語学校の学習者を中心にー』 桜美林大学大学院言語教育研究科提出修士論文
- 住政二郎 (2014) 「第19章 GTA 入門ー言語データを質的に分析するには」 竹内理・水本篤編 『外国語教育研究ハンドブックー研究手法のより良い理解のために 改訂版』 松柏社 pp.285-306
- 谷口すみ子・赤堀侃司・任都栗新・杉村和枝 (1994) 「日本語学習者の語彙習得ー語彙のネットワークの形成過程ー」 『日本語教育 (84)』 pp.78-91

- 唐旻 (2013) 『「教室における参加」から見る中国人大学院留学生の自己成長』 桜美林大学大学院言語教育研究科提出修士論文
- 日本語教育学会 (1982) 編『日本語教育事典』 大修館書店
- 橋本ゆかり (2007) 「初級日本語学習者の語彙知識の量的側面と語彙学習ストラテジーの関わりーハンガリーの日本語学習者を対象にー」 『ICU 日本語教育研究 (4)』 pp.21ー36
- 廣森友人・中島優子・尾関直子・大和隆介 (2005) 「指導に用いる代表的なデータ収集方法」『言語学習と学習ストラテジーー自律学習に向けた応用言語学からのアプローチ』 pp.158ー175
- 文化庁 (1983) 『漢字音読語の日中対応』 文化庁
- 元木芳子 (2006) 「第二言語学習と学習ストラテジー」『日本大学大学院総合社会情報研究科紀要 (7)』 pp.689ー700
- 谷内美智子 (2002) 「第二言語としての語彙習得研究の概観ー学習形態・方略の観点からー」 『言語文化と日本語教育』 pp.155ー169
- 山元淑乃 (2011) 「学習者主体の活動型授業: 学習者オートノミーの育成を目指して」 『留学生教育: 琉球大学留学生センター紀要 (8)』 pp.73ー92
- レベッカ L・オックスフォード (1994) 宍戸通庸・伴紀子訳 『言語学習ストラテジーー外国語教師が知っておかなければならないことー』 凡人社

参考 URL (最終検索日 2015.07.03)

宇佐美まゆみ 「基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System For Japanese: BTSI) 2011年版」

<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/usamiken/btsj2011.pdf>

外務省 外国人留学生在籍状況調査結果

[http://www2.jasso.go.jp/statistics/intl\\_student/documents/data14.pdf](http://www2.jasso.go.jp/statistics/intl_student/documents/data14.pdf)